脇本古墳群糸割渕1号墳・2号墳

【所　在　地】阿久根市脇本糸割渕 5657，7643 － 2
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 50 年３月 31 日

古墳群全景
1号墳近景

脇本古墳群は，阿久根市脇本の新田ヶ丘にある新田ヶ丘１～４号墳と，同地東側に突き出した糸割渕丘陵縁辺部にある糸割渕１，２号墳の総称で，そのうち糸割渕１，２号墳が県指定史跡となっている。

糸割渕１号墳は旧瀬ノ浦入江に向って突き出した丘陵の先端部付近にあり, 長軸 219cm, 短軸 127cm の石室壁石が地上に露出し，蓋石や恐らくあったであろう墳丘は失われている。石室内からは鉄剣３本，刀子２本，鉄鏃約 30 本のほか土師器片が少量発見されている。同地の古墳群中最も多くの鉄製品を出土している。6 世紀前葉から中葉と推定される。

糸割渕２号墳は，１号墳の東北約９ m の近接したところにあり，平石を立てて石室の側壁とするなど，形式は１号墳と同一である。しかし，蓋石や，側石の一部が失われ，石室の床面も乱れている。副葬品としては，南側側石下に２本の鉄製の直刀が出土し，鉄鏃も多数出土しているが完形品は１点もなく，はっきりした点数も確認できないが，１号墳よりやや後出するものと推定される。

１，２号墳が，同一墳丘に追葬の形でつくられたのか，あるいは別々の墳丘をもっていたものなのかは不明だが，形式・位置からして非常に近い関係の人物が葬られていたものと思われる。